



TITLE:

<研修報告>平成15年度近畿地区国立学校等技術専門職員研修

AUTHOR(S):

和田, 博夫; 高山, 鉄朗; 矢部, 征

CITATION:

和田, 博夫 ...[et al]. <研修報告>平成15年度近畿地区国立学校等技術専門職員研修. 技術室報告 2004, 5: 106-108

ISSUE DATE:

2004-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/233286>

RIGHT:

「平成 15 年度近畿地区国立学校等技術専門職員研修」を受講して

機器開発班（上宝観測所）

和田博夫

夏真っ只中の 8 月 5 日から 8 日までの 4 日間、神戸大学瀧川記念学術交流会館を中心会場として、標記研修会が行われた。防災研究所技術室から高山、矢部両技官とともに、参加する機会を与えていただいた。移動日を含めて 6 日という長期間であり、最終日は多少疲れも感じた程であった。期間中雨にたたられたが、特に最終日は台風の襲撃が予想され、遠方からの技官は、少し早めの帰途が配慮された。

この研修会は、初日に行政上の問題点について 4 件の講演が、文部科学省の方々及び神戸大学の先生により行われた。日頃余り聴くことのない多くの行政上の問題について聴講出来たことは大変参考となった。2 日目は、情報処理分科会と物理・化学分科会に分かれての専門講義であった。私は情報処理分科会に参加したが、非常に難しい講義であり、自分の非学を身にしてみた一日であった。「バーチャルリアリティー」、「マルチメディア情報の高次処理」、「最新ネットワーク技術の展望」、「暗号プロトコル」といったタイトルで、興味ある方には大変おもしろい講義かもしれませんが、観測中心で今日に至った私にとっては殆ど理解できない内容であった。3 日目は施設見学で、バスで移動して「スプリングー 8」と呼ばれる施設を見学した。カタログに依れば、光速で直進する電子が進行方向を磁石などによって変えられたときに発生する電磁波を放射光と呼び、この放射光を発生させる為の施設が、「スプリングー 8」と呼ばれる施設だそうです。最終日は、午前中前半分科会に分かれてそれぞれの分科会に関係するビデオを鑑賞した後、瀧川記念学術交流会館に会場を移してグループ討議を行った。テーマは「安全管理と技術職員の役割」であった。12 人位の人数に分けての討論であったが、私の所属するグループは、殆どがコンピューターを中心に仕事をしている人たちであり、話の多くはウイルスチェック、ホームページ管理、ネットワーク管理に関する問題であった。他にも少数意見として、薬品管理、環境整備、坑道入坑、官用車運転等による安全問題の意見もあった。今回の最後の講義として、神戸大学の教官による「ストレス解消法」を聴講して一連の研修が終了した。全体的に非常に難しい研修であったと思うが、行政上の諸問題に関する講義が聴けたのは収穫であったと思っている。

平成 15 年度近畿地区国立学校等技術専門職員研修に参加して

観測班（桜島） 高山 鉄朗

2003 年 8 月盛夏、平成 15 年度近畿地区国立学校等技術専門職員研修に防災研技術室から 3 名参加した。参加資格は特にないようだけど、京大では我々の他に 4 名の化学研究所の方々や 2 名の人間・環境学研究科の方その他合わせて 15 名の参加であったが、個人

的には同じ九州勢の理学研究科，旧称“別府温泉研究所”の馬渡技官の参加が嬉しかった．
なお，参加総数は 54 名を数えた．

初日はオリエンテーションもそこそこに文部科学省の 3 名のお役人の話と，神戸大学大学院経営学研究科谷教授の講義であったが，特に，一こま目の“大学行政上の諸問題”では当然ながら国立大学法人化の話もあって，「親方日の丸の時代は終了です」の言葉を非常に強く感じることであった．

初日終了後の懇親会は高台の神戸大学から，大パノラマの大阪湾を見下ろして乾杯の音頭があり灘の冷酒が空腹の胃袋に染み渡る．

神戸市内は Web で探して新開地と言う所に宿を決めたが，地元の人に言わすと少々意味ありげな地域らしい．が，神戸大学までの通勤も慣れて 2 日目の実習授業に入る．もともと物理で応募していたのであるが，今回の物理コースは思惑の例えば測地・測量みたいなものではなく，“光スペクトルに関する実習”であった．神戸大学大学院自然科学研究科岡村助教授のもと，矢部先輩を含めた 5 名の少人数の受講で，高校の頃の実験授業を思わず感じで約 7 時間楽しい実習ができた．内容は小型分光器を用いた簡単な分光実験により光スペクトルの概念を学び，身の回りにあふれる“色”はすべて固有の光スペクトルの結果であることを理解すること．また，実験装置は PC (Windows) 制御であり，データは表計算ソフト“Excel”を用いてグラフ化するため，PC によるデータ処理も合わせて親しむことができた．

3 日目は楽しい施設見学であった．目的地の兵庫県佐用郡三日月町にある播磨科学公園都市では，まず先輩講話として医学部本多雅子氏による臨床心理士の話と，工学部木山正典氏による建築の講話を楽しく聞くことができた（両氏共神戸大学の技術専門官）．昼食後はメインテーマである（財）高輝度光科学研究センター「Spring-8」を 2 班に分かれて見学した．見学前高輝度光」とは何ぞや・・・」なんて考えていたが，前日に光の勉強をしていたことが手伝って少しは理解することができた．

4 日目朝・・・その頃鹿児島では大型台風 10 号が遅いスピードで北上をしていた．1 時間目の研修はビデオ視聴で，大学構内にある放送大学兵庫学習センターで 3 班に分かれて視聴する．しかし，台風のことが気になって視聴は耳に入らない．先輩の矢部・和田（博）さんも気に掛けて心配してくれている．午前の 2 時間目はこれも 3 班に分かれてグループ討議で，議題は「安全管理と技術職員の役割」であった．こちらは独立法人化に伴いどの職場でも問題になっていることで，初日の文部科学省お役人の話にもあった「人事行政上の諸問題」でも取り上げられたが，各機関いろんな問題が活発に議論された．高山は火山地帯における安全管理という観点からこれまで行ってきた桜島方式を話し，最終的には個人の責任における自己安全管理の徹底が己を守ると締めくくり，残された午後の研修は台風を理由に受講を許していただき空港バスで神戸の街を後にした．

その頃台風 10 号は四国の南海上にあって夜半前にも関西上陸の予報であった．伊丹空港では欠航便が相次ぎ，あきらめていた鹿児島便は，長崎空港に降りることもあると言う条件つきで 14 時に離陸したが，まだ風のおさまらない鹿児島空港に 15 時過ぎに着陸した．その後の話であるが，高山の帰路を心配してくれた鳥取の矢部先輩は関西に上陸した台風 10 号の影響をもろに受け，予約していた高速バスは 2 時間遅れで鳥取市内に到着したという．

平成 15 年度近畿地区国立学校等技術専門職員研修に参加して

防災研究所技術室 観測班

矢部 征

私にとって最後の技術研修の場と言う事で技術室長より指摘があり、それならばと言うことになり参加の運びとなりました。

平成 15 年 8 月 5 日から 8 日までの 4 日間神戸大学瀧川記念学術交流会館を主会場に神戸大学工学部、理学部と分科会会場で研修会があり 54 名の参加で行われました。1 日目の講義では文部科学省、神戸大学より大学行政上の諸問題、学術行政上の諸問題、人事行政上の諸問題、そして、これからの大学経営など法人化に向けての大学の運営の講義で終了した。

2 日目の分科会は情報処理（専門講義）物理・化学（物理実習）物理・化学（化学専門講義）の 3 分科会で行われた。私は物理・化学の物理実習を受け光スペクトルに関する実習と超伝導に関する実習を受けた。光スペクトルでは小型分光器を作り簡単な分光実験により光スペクトルの概念を学ぶ。超伝導では、低温における物質の電氣的性質調べ、低温における諸物質の性質についても体験した。

3 日目は施設見学で、播磨科学公園都市の県立先端科学技術支援センターと高輝度光科学研究センター**Spring-8**を見学し、同時に神戸大学技術専門官 2 名の先輩講話を聴講する。講話では研究室勤務と臨床心理士の立場から技術専門官としての仕事の様子を聞かせていただいた。

最終日はグループ討義と特別講義でグループ討義では、各分野 2 班 4 グループで討義し、テーマは「安全管理と技術職員の役割」で研究室など私的な職場実験授業などの教育現場、学部など全学的な場面における取組みで進められた。各グループとも国立学校等の法人化に向けて、それぞれの職場で安全管理の点検、見直しそして改善に向けての取組みの内容が多数出ているように感じました。

瀧川記念学術交流会館から眼下に神戸製鋼の巨大な姿が眺められ、震災から立ち上がった姿をじっくりと見る事が出来ました。それにしても、本当に暑い 4 日間でした。4 日間大学までの朝のバス、登り坂、ああこれが神戸かとしみじみと感じられた研修でした。今年度は東京、神戸と 2 回も研究会、研修会に参加し、嬉しく思います。大変にお世話になりました。